

REGAL

第175期 中間決算説明資料

平成18年4月1日 ▶ 平成18年9月30日

株式会社 リーガルコーポレーション

■ 目次

ごあいさつ 平成18年9月中間決算概要	1
企業集団が対処すべき課題 通期の見通し	2
TOPICS	3
TOPICS	4
中間決算ハイライト（連結）	5
中間連結財務諸表（要約）	6
中間個別財務諸表（要約）	7
会社情報	8

■ ごあいさつ

皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに第175期上半期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。
平成18年12月

平成18年9月 中間決算概要

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、堅調な企業業績を背景とした設備投資の増加、および雇用や所得環境の改善による個人消費の底堅い動きなどにより、景気は総じて緩やかな回復基調で推移いたしました。

靴業界におきましては、大型ショッピングセンターの出店攻勢や後継者難などにより靴専門店が減少する一方、異業種からの市場参入の本格化などにより顧客獲得競争が激しさを増すなど、引き続き厳しい経営環境のまま推移いたしました。

このような環境のなかで、当社グループは、事業カテゴリーを軸とした営業体制のもとで、高付加価値商品の提案やカジュアル・コンフォート商品の強化、取引先との特注品開発などの営業活動に取り組んでまいりました。また、中国上海市の靴小売独立子会社「上海麗格鞋業有限公司」がリーガル専門店の2号店を上海新天地地区に出店するなど、海外を含め、直営小売店を効果的に出店してまいりました。さらに、お得意先、担当地域、業務内容等を見直し、靴流通市場の変化に対応して国内販売の強化や経営全般の効率化に取り組んでまいりました。なお、2ページの「企業集団が対処すべき課題」に記載してありますとおり、個別の当中間会計期間におきましては、多額の事業再編特別損失を計上いたしましたが、すべて連結子会社に対するものであり、連結処理上消去されますので、連結業績には影響ありません。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、173億7千万円（前中間連結会計期間比1.7%増）となりました。
損益面につきましては、生産効率向上、海外での低コスト商品の開発強化等による原価率の低減、取引内容の見直しや直営小売店舗の増加による売上総利益の改善などを進めてまいりました。

この結果、中間営業利益は1億6千2百万円（前中間連結会計期間比701.0%増）、中間経常利益は1億1千1百万円（前中間経常損失5千6百万円）となりましたが、特別損失の計上もあり、中間純利益は7百万円（前中間純損失3億9千6百万円）となりました。

事業部門別の概況は次のとおりであります。

①小売部門

小売部門につきましては、上記の上海リーガル2号店の出店に加え、国内では、新しい店舗形態の婦人靴専門店ナチュラルライザー札幌店やREGAL women銀座店を出店するなど、計3店舗を出店するとともに、不採算店1店舗を閉店するなど、引き続き、新規顧客の獲得や店舗の効率化につとめてまいりました（上海のリーガル専門店2店舗を含め合計79店舗）。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、59億7千7百万円（前中間連結会計期間比12.8%増）となりました。



代表取締役社長 伊藤 利男

②卸売部門

卸売部門につきましては、紳士靴では、「リーガル」のビジネス&ドレスタイプが堅調に推移し、また「リーガル」や「クラークス」のカジュアルタイプが、前年同様クールビズの影響などにより、好調に推移いたしました。ボリュームゾーンのビジネス、カジュアル商品は売上減少傾向に歯止めがかからず苦戦いたしました。婦人靴では、カジュアル色の強い「クラークス」や「ナチュラルライザー」などがマーケットの傾向どおり好調に推移いたしました。エレガンスタイプの主力である「ピンキー&ダイアン」は引き続き苦戦いたしました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は、109億5千2百万円（前中間連結会計期間比2.9%減）となりました。

③その他事業

靴材料の販売などその他事業の当中間連結会計期間の売上高は、4億4千万円（前中間連結会計期間比12.3%減）となりました。

企業集団が対処すべき課題

当社グループを取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続くものと予想されますが、このような状況下におきまして、当社グループは、組織の効率化及び合理化、店頭売上を重視した営業活動、新コンセプトの商品及び店舗の開発、人材の育成、に取り組んでまいります。

① 組織の効率化及び合理化

ブランド特性に応じた販売チャネル別の営業体制のもとで、開発から販売まで一体化した活動をしてまいります。

なお、当中間会計期間においては、経営環境の変化に伴い、多様化する顧客ニーズへの迅速な対応並びに事業の効率経営を追求し、健全な成長企業としての基盤を確立するため、卸売子会社の再編を主とした事業再編を実施いたします。

このため、個別の当中間会計期間において事業再編損失として30億2千4百万円を計上いたしました。

② 店頭売上を重視した営業活動

得意先に対してパートナーの立場をとり、得意先の抱える問題に対する方策を得意先とともに考える、提案型の営業活動を続けてまいります。

③ 新コンセプトの商品および店舗の開発

カジュアル化の流れに対応した、新たなコンセプトの商品、具体的にはトラベルやウォーキングといった切り口からの商品など、顧客層や商品カテゴリーを絞った商品、店舗を開発してまいります。

④ 人材の育成

製造技術の質を高めることを目的として、国内生産子会社および海外生産メーカーへの技術者の派遣、直営小売店を中心とした接客販売技術の向上、などに取り組んでまいります。

通期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内経済は好調な企業業績による雇用や所得環境などの改善により、緩やかな景気回復が見込まれるものの、原油価格の動向や税制改正などによる消費マインドへの影響が懸念されるなど、先行き不透明感もあり、靴業界では、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況下におきまして、当社グループは、組織の効率化および合理化、店頭売上を重視した営業活動、新コンセプトの商品および店舗の開発、人材の育成、に取り組んでまいります。

通期の業績見通しにつきましては、連結売上高374億7千万円、連結経常利益9億6千万円、連結当期純利益7億4千万円を見込んでおります。

（注）この資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づいているため、リスクや不確実性を含んでおります。したがって、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なることがあります。

TOPICS

REGALブランドの中国小売事業の拡充と靴卸売り事業に進出

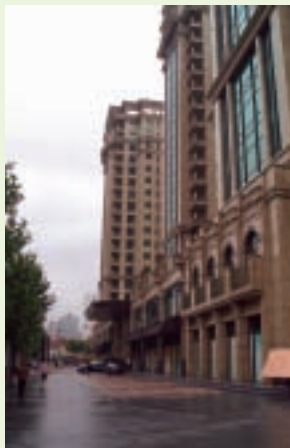
ロケーション



9月15日上海新天地地区にリーガル専門店第2号店が出店しました。当社と伊藤忠商事株式会社の合弁事業である上海リーガル株式会社が第

2号店を9月15日に上海新天地地区にオープンさせました。

新天地地区は上海の中でも伝統のある旧市街にあり、3期にわたる再開発事業により出来た人気のエリアで、20世紀初頭の雰囲気を残す石庫門建築の中に一步踏み入るとそこには現代感覚あふれるレストラン、ショップ、などの商業施設があるという観光地としても商業地としても有名な場所です。



REGAL

上海リーガル2号店

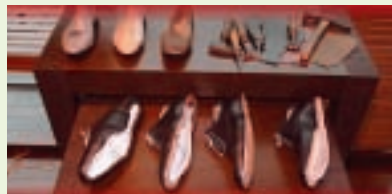
住所 上海市馬当路222号 華府天地商舖T单元
Rich gate-T No.222 Mandang Rd. Shanghai

電話 021-5382-8308

店内



第2号店はその地区に建設された高級マンション、オフィス、商業施設が入る超高層複合施設（リッチゲート RichGate Tower）1階への出店で、路面店で1階108㎡、2階132㎡の大型店舗で外光をふんだんにとり入れた明るく高級感あふれる店舗です。



2階ではVIP層向けの新しいサービスとしてパターンオーダーを開始しました。

また、当社は今回の中国小売事業をきっかけとし、中国国内での卸売り販売の申請が認められ、本年は香港にて、当社メンズビジネスシューズブランド「ケンフォード」、レディースではライセンスブランドの「ヴェールダンス」の卸売りを現地小売店と協業にてビジネス展開を始めております。

TOPICS

ウィメンズオンリーショップ 「REGAL women 銀座店」 オープン



「美しい通勤スタイル」にふさわしい、ラインナップの中から厳選された「REGAL」と、ほどよいクラシック感とフレンチテイストをミックスした「machouette」(マシュエット)の2ブランドを展開。美しく知性ある「通勤スタイル」を提案するREGALショップの新しい魅力を存分にお楽しみください。



「REGAL women 銀座店」
東京都中央区銀座1丁目6-13
106GINZA BLDG
TEL : 03-3567-1400

naturalizer

ナチュラルライザーショップ 1号店 サッポロファクトリーにオープン



naturalizer (ナチュラルライザー) は1927年に米国で誕生し、現在、女性に愛され信頼されるブランドとして米国では最も認知されている靴ブランドのひとつで、全米で350を超える店舗を展開し、全米百貨店売り上げシェアで常に1、2位を獲得しております。

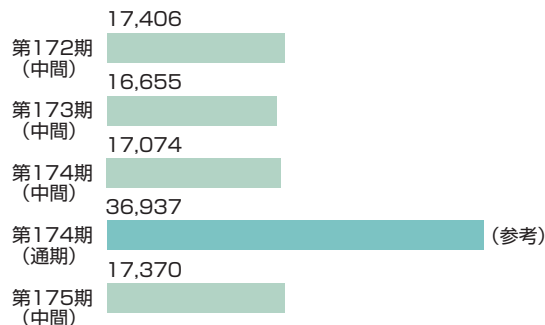
2006年からは4つのブランドエッセンス feminine style comfort naturalを表すフラワーモチーフ、可愛らしいベビーピンクカラーを使ったアイコンを採用し、より女性らしいイメージにリニューアルされました。

日本でのnaturalizer shopはこの最も新しいイメージのもとに、大きな姿見鏡、ナチュラルツリー、ソファーなど、リビングでくつろぐような感覚で買える物が出来るコンセプトとし、サッポロファクトリーに1号店を9月にオープンし、引き続き11月に神戸に2号店をオープン。店舗の出店を通じ全てにおいて前向きに生きる女性 (career-minded leader) に美しさと心地よさを持つナチュラルライザーの市場を創造してまいります。

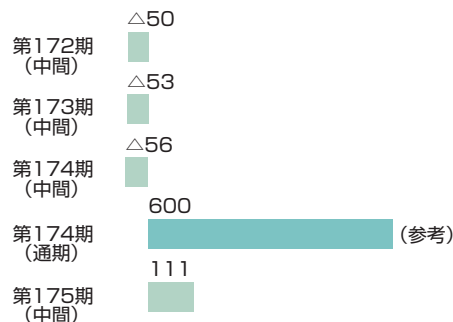
「ナチュラルライザー サッポロファクトリー店」
北海道札幌市中央区北2条東4丁目
サッポロファクトリー2条館2F
TEL : 011-261-3666

■ 中間決算ハイライト(連結)

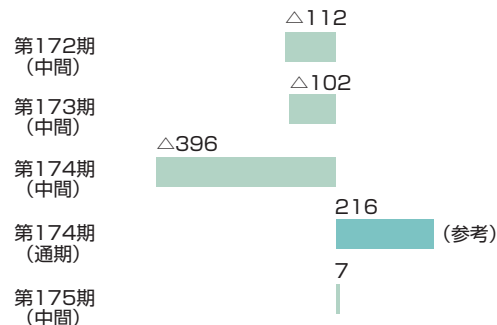
■ 売上高 (百万円)



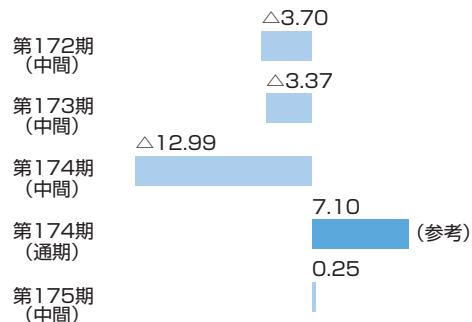
■ 経常利益又は経常損失 (△) (百万円)



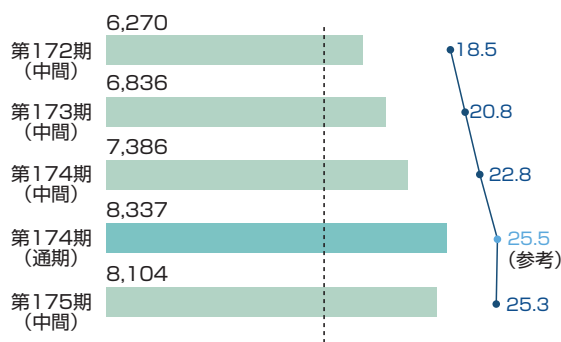
■ 中間純利益又は中間純損失 (△) (百万円)



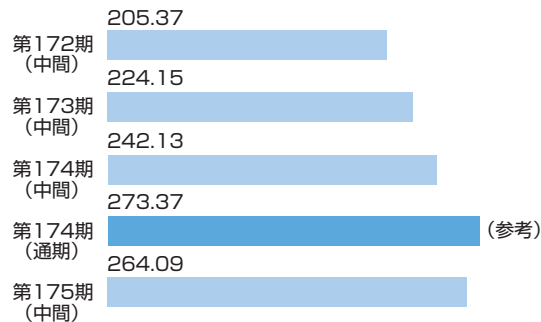
■ 1株当たり中間純利益又は中間純損失 (△) (円)



■ 純資産額 (百万円) ■ 自己資本比率 (%)



■ 1株当たり純資産額 (円)



■ 中間連結財務諸表（要約）

中間連結貸借対照表

(単位：百万円 未満切捨)

科目	当中間期	前中間期
	平成18年9月30日現在	平成17年9月30日現在
● 資産の部		
流動資産	17,513	18,003
固定資産	14,250	14,349
有形固定資産	4,624	4,756
無形固定資産	42	25
投資その他の資産	9,583	9,567
資産合計	31,763	32,352
● 負債の部		
流動負債	16,307	17,203
固定負債	7,352	7,709
負債合計	23,659	24,913
● 少数株主持分		
少数株主持分	—	52
● 資本の部		
資本金	—	5,355
資本剰余金	—	2,701
利益剰余金	—	△ 2,811
土地再評価差額金	—	1,454
株式等評価差額金	—	937
為替換算調整勘定	—	1
自己株式	—	△ 251
資本合計	—	7,386
負債、少数株主持分及び資本合計	—	32,352
● 純資産の部		
株主資本	5,555	—
資本金	5,355	—
資本剰余金	2,701	—
利益剰余金	△ 2,242	—
自己株式	△ 257	—
評価・換算差額等	2,488	—
その他有価証券評価差額金	1,040	—
繰延ヘッジ損益	13	—
土地再評価差額金	1,429	—
為替換算調整勘定	4	—
少数株主持分	60	—
純資産合計	8,104	—
負債純資産合計	31,763	—

中間連結損益計算書

(単位：百万円 未満切捨)

科目	当中間期	前中間期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	17,370	17,074
売上原価	10,649	10,709
売上総利益	6,721	6,364
販売費及び一般管理費	6,558	6,344
営業利益	162	20
営業外収益	112	158
営業外費用	163	234
経常利益又は経常損失(△)	111	△ 56
特別利益	12	37
特別損失	95	276
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	28	△ 295
法人税、住民税及び事業税	21	20
法人税等調整額	7	83
少数株主損失	△ 8	△ 3
中間純利益又は中間純損失(△)	7	△ 396

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円 未満切捨)

科目	当中間期	前中間期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	38	△ 697
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 76	△ 214
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 327	598
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	1
現金及び現金同等物の減少額(△)	△ 367	△ 312
現金及び現金同等物の期首残高	2,211	2,090
連結子会社増加に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—	100
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,844	1,877

中間連結株主資本等変動計算書 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位：百万円 未満切捨)

	株主資本					評価・換算差額等						少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成18年3月31日残高	5,355	2,701	△ 2,249	△ 253	5,552	1,349	—	1,429	5	2,784	44	8,381	
中間連結会計期間中の変動額													
中間純利益			7		7							7	
自己株式の取得				△ 4	△ 4							△ 4	
株主資本以外の項目の中間連 結会計期間中の変動額(純額)						△ 308	13		△ 1	△ 296	15	△ 280	
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	7	△ 4	3	△ 308	13	—	△ 1	△ 296	15	△ 277	
平成18年9月30日残高	5,355	2,701	△ 2,242	△ 257	5,555	1,040	13	1,429	4	2,488	60	8,104	

■ 中間個別財務諸表（要約）

中間貸借対照表

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成18年9月30日現在	平成17年9月30日現在
● 資産の部		
流動資産	18,625	22,425
固定資産	11,108	10,142
資産合計	29,734	32,567
● 負債の部		
流動負債	16,333	16,577
固定負債	5,628	5,808
負債合計	21,961	22,386
● 資本の部		
資本金	—	5,355
資本剰余金	—	2,701
利益剰余金	—	56
土地再評価差額金	—	1,454
株式等評価差額金	—	619
自己株式	—	△ 5
資本合計	—	10,181
負債、資本合計	—	32,567
● 純資産の部		
株主資本	5,612	—
資本金	5,355	—
資本剰余金	2,701	—
利益剰余金	△ 2,434	—
自己株式	△ 8	—
評価・換算差額等	2,160	—
その他有価証券評価差額金	706	—
繰延ヘッジ損益	24	—
土地再評価差額金	1,429	—
純資産合計	7,772	—
負債純資産合計	29,734	—

中間損益計算書

（単位：百万円 未満切捨）

科目	当中間期	前中間期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	15,909	15,763
売上原価	10,747	10,696
売上総利益	5,161	5,066
販売費及び一般管理費	5,051	4,875
営業利益	110	191
営業外収益	139	131
営業外費用	170	243
経常利益	79	79
特別利益	2	10
特別損失	3,090	292
税引前中間純損失	3,009	202
法人税、住民税及び事業税	9	9
法人税等調整額	△ 231	10
中間純損失	2,786	222
前期繰越利益	—	293
土地再評価差額金取崩額	—	△ 14
中間未処分利益	—	56

中間株主資本等変動計算書（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）

（単位：百万円 未満切捨）

	株主資本						評価・換算差額等					純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計							
平成18年3月31日残高	5,355	2,701	2,701	351	351	△ 7	8,399	945	—	1,429	2,375	10,775
中間会計期間中の変動額												
中間純損失				△ 2,786	△ 2,786		△ 2,786					△ 2,786
自己株式の取得						△ 0	△ 0					△ 0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）								△ 239	24		△ 215	△ 215
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	△ 2,786	△ 2,786	△ 0	△ 2,787	△ 239	24	—	△ 215	△ 3,002
平成18年9月30日残高	5,355	2,701	2,701	△ 2,434	△ 2,434	△ 8	5,612	706	24	1,429	2,160	7,772

